

「認知症」について考えてみませんか？

入場
無料

450名
先着順

アルツハイマー病を患った母を
98歳になった父が賢明に介護する日々
そんな中、新型コロナウイルスの波が押し寄せて
事態は急変する。



「ぼけますから、よろしくお願いします。」その後を描いた続編。
～おかえりお母さん～
〈日本語字幕付き上映〉

主催／一般社団法人竹原地区医師会
共催／竹原市、竹原地域医療介護推進協議会

監督・撮影・語り
& ひとり娘
信友直子

ぼけますから、
よろしくお願いします。
～おかえりお母さん～

母が認知症になっても、父は変わらぬ愛を注ぐ
結婚生活60年を過ぎた90代夫婦の生きる道

2022年/日本ドキュメンタリー/101分/ビスタ/2.0ch 監督・撮影・語り:信友直子 プロデューサー:大島新 堀治樹 制作プロデューサー:稲葉友紀子
編集:目見田健 撮影:南幸男、河合輝久 音楽効果:金田智子 ライン編集:池田裕 整音:富永憲一 制作プロダクション:スタッフラビ
製作:フジテレビ ネットizen 関西テレビ 信友家 配給:宝伝・アンブラッド © 2022「ぼけますから、よろしくお願いします。～おかえりお母さん～」製作委員会 www.bokemesu.com



©2022「ぼけますから、よろしくお願いします。～おかえりお母さん～」製作委員会

日時:
令和6年

9月8日(日) 上映 13:30~

映画上映後に20分程度、映画や認知症についての意見交換会を予定しています。

会場:

竹原市民館

開場12:30 (閉会16:00)

(竹原市中央5丁目5-24) JR竹原駅より徒歩5分
近隣の商業施設の駐車場のご利用はご遠慮ください。

人が生きて老いてゆく先には、
必ず死と別れがあります。
でも人生の最終章は悲しいだけではありません。
お互いを思いやり、かわす笑顔もありました。
今回もまた、誰もが自分のこととして
感じてもらえる物語になったと思います。

信友直子 (監督・撮影・ひとり娘)

ロコミが広がり異例のロングランになった
『ぼけますから、よろしくお願ひします。』(18)

あれから4年。90代夫婦の愛の形を描いた感動の物語がふたたび始まる。

本作では前作をひも解きながらその後の夫婦の物語を描く。老老介護、認知症、看取り。日本全体を抱える高齢化社会のリアルな問題をありのままに、かつ、時にユーモラスに綴っていく。認知症とともに生きることの大変さや家族の苦勞に共感する一方で、こんな風に生きられたらと憧れを抱かせてくれるような夫婦の姿があった。

広島県呉市。信友直子監督が描くのは年老いた自らの父と母。アルツハイマー型認知症を発症した母の症状が進むにつれ、父は95歳にして人生で初めて家事を覚え、妻を支えている。現実を丹念に見つめた前作『ぼけますから、よろしくお願ひします。』は、令和元年度文化庁映画賞・文化記録映画大賞、キネマ旬報ベスト10文化映画3位、ぴあ映画の初日満足度では1位になるなど高い評価を得た。



東京で働くひとり娘の「私」(監督・信友直子)は広島県呉市に暮らす両親を1作目完成後も撮り続けた——



「2018年。父は家事全般を取り仕切れるまでになり日々奮闘しているが、母の認知症はさらに進行し、ついに脳梗塞を発症、入院生活が始まる。外出時には手押し車が欠かせない父だったが、毎日1時間かけて面会に行き、母を励まし続け、いつか母が帰ってくるためのと98歳にして筋トレまで始め周囲を驚かせる。しかし2020年春には新型コロナウイルスが猛威をふるい面会すらままならなくなる。」



ぼけますから、
よろしくお願ひします。
～おかえりお母さん～

監督・撮影・語り:信友直子 プロデューサー:濱潤 大島新 堀治樹 制作プロデューサー:稲葉友紀子 編集:目見田健 撮影:南幸男 河合輝久
音響効果:金田智子 ライン編集:池田聡 整音:富永憲一 製作プロダクション:スタッフラビ 製作:フジテレビ ネットゲン 関西テレビ 信友家 配給:宣伝:アンブラグド
© 2022「ぼけますから、よろしくお願ひします。～おかえりお母さん～」製作委員会 2022年/日本/ドキュメンタリー/101分/ビスタ/2.0ch

bokemasu.com @bokemasukara2

お問い合わせ 竹原地区医師会
☎(0846) 22-9377

【お車でお越しの方へ】

駐車場は、竹原市役所、竹原市職員駐車場、あまの耳鼻科、城原クリニック、大田整形外科おた内科をご利用ください。